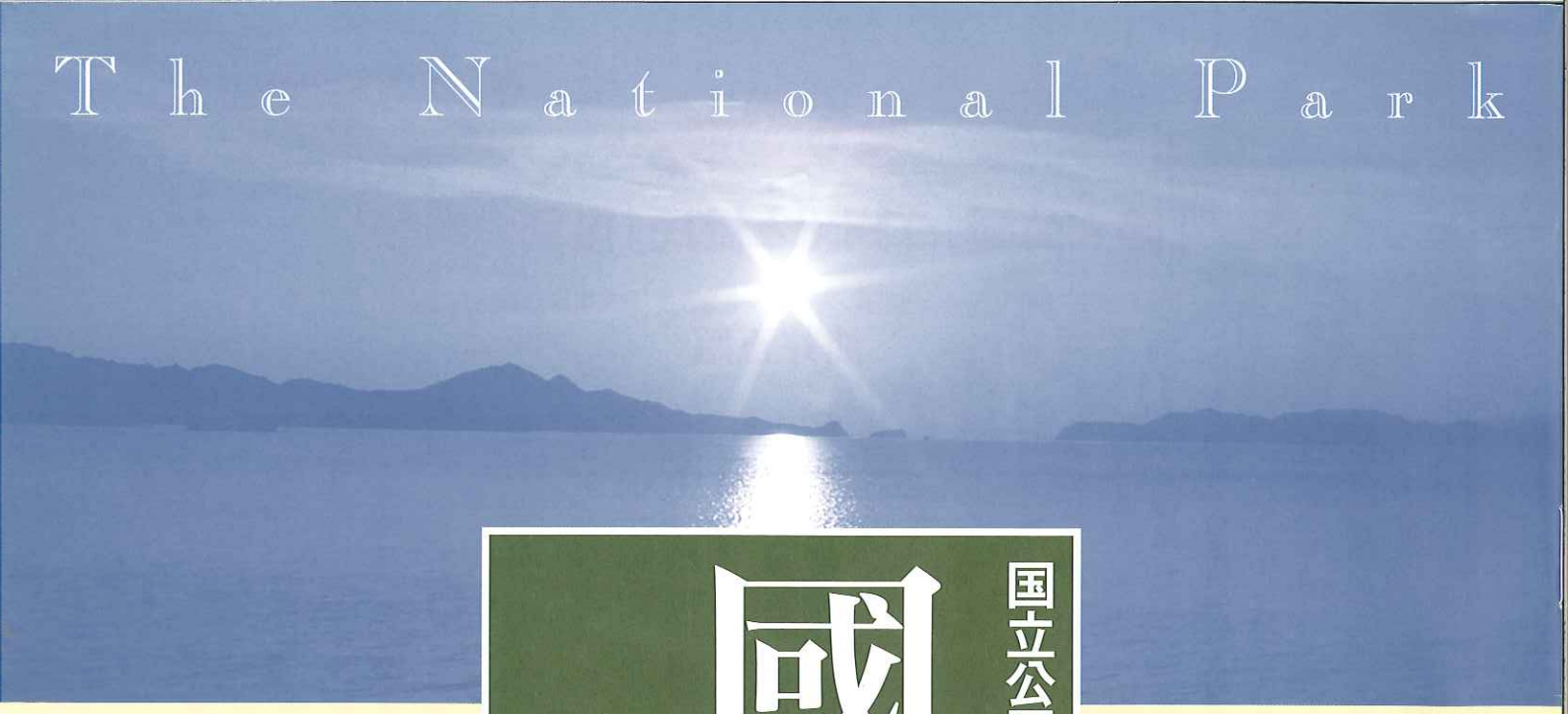


国立公園協会＝発行

國立公園

復刻版

1929
↓
1944

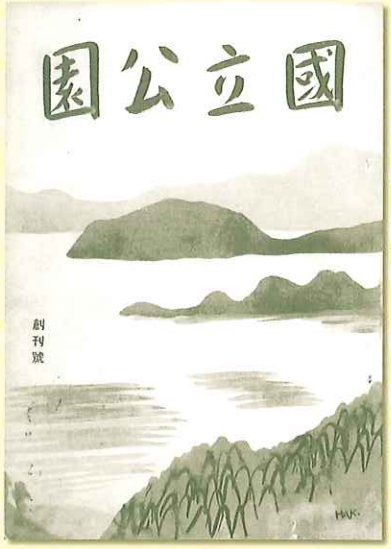
全12巻＋別冊1

戦前・戦中期における「国立公園」の選定・成立・運営、
そしてその意義とは何であったのか。
「環境」「観光」「自然」「健康」志向の向上から、
「国立公園」に対する注目と期待が高まりつつある今、
日本における国立公園行政の全体像を解明する上で不可欠な基本資料を、
復刻刊行！

全4回配本（2010年7月刊行開始）

解題●白幡洋三郎（国際日本文化研究センター教授）

本体揃価格●312,000円＋税



不二出版

刊行の辞

「國立公園」・「國土と健民」復刻の朗報

財団法人国立公園協会理事長／千葉大学名誉教授・桐蔭横浜大学客員教授
油井正昭

昭和二年（一九二七）一二月、本多静六、田村剛、三好学、細川護立など国立公園創設に熱心な活動を行っていた先覚の方々が発起して国立公園協会を設立した。国立公園協会は、昭和四年三月に機関誌「國立公園」を創刊し、太平洋戦争中の昭和一八年「國土と健民」に改題したが、昭和二三年に「國立公園」の誌名で復刊し、今日も国立公園の情報誌として刊行が続いている。

「國立公園」が創刊された昭和四年は、国立公園制度が制定される前であり、誌面は国立公園の理念や国立公園の社会的効果、アメリカやカナダなど先進国の様子などを載せ、国立公園誕生への理論展開に努めている。昭和六年に国立公園法が制定され、昭和九年から国立公園指定が始まったが、「國立公園」は制度の解説、各国立公園の特質、風景の保護や利用、公園施設など広範な記事をとおして国立公園の普及啓発に力を注いでいる。太平洋戦争中に改題した「國土と健民」からは、当時の国立公園の社会的意義を知ることができる。

この度、不二出版株式会社が、「國立公園」創刊号から「國土と健民」までの全巻を復刻することは、国立公園に関心をもつ方々にとって大きな朗報である。

「國立公園」、「國土と健民」は、国立公園の成立と発展の初期を知る貴重な資料だが、戦前・戦中に発行された「國立公園」、「國土と健民」に目を通すのは難しいのが現状であり、この復刻の機会に手にしていただければと思う。

戦前・戦中期 財団法人 国立公園協会関連年表

- 一九二一年● 内務省が国立公園候補地調査を開始
- 一九二七年● 国立公園協会設立発起人会開催
- 一九二九年● 国立公園協会発足
  機関紙『國立公園』創刊
- 一九三〇年● 内務省に国立公園調査会を設置
- 一九三一年● 「国立公園法」制定
  国立公園は内務省衛生局保健課の所管
- 一九三四年● 三月、我が国初の国立公園として「瀬戸内海」「霧島」「雲仙」が指定される
  十二月には「大雪山」「阿寒」「日光」「中部山岳」「阿蘇」が指定される
- 一九三六年● 「十和田」「富士箱根」「吉野熊野」「大山」が指定される
- 一九三七年● 台湾の「大屯」「次高・タロコ」「新高・阿里山」が指定される
- 一九三八年● 厚生省設置、国立公園行政は厚生省体力局施設課に移管
- 一九四一年● 国土計画対策委員会を設置し、国立公園・都道府県立公園の増設を計画
- 一九四二年● 国土計画委員会が計画した国立公園を厚生省に建議した
- 一九四三年● 機関誌名を『国土と健民』へ改称する
  国立公園協会、「国土健民会」に改称する
- 一九四四年● 国立公園行政事務一時停止となる
  十一月に誌名を『会報』へ改称
- 一九四五年● 『会報』三月号をもって休刊（※一九四八年に復刊）
  終戦
  国立公園行政復活（十二月）

内容見本

大風景地の保護と開發
―國立公園の使命―

田村剛

上風景國日本

我が日本は世界の公園だと呼ばれてゐます。お國自慢は誰しも致しますが、我國に來遊する世界的旅行家が口を揃へて日本は世界の大風景國だと申します。最近エッケナー博士の如きも、ツェッペリン伯號で日本を訪れての感想にも眞先に『驚くべき美はしい國だ』との讃辭を呈して居ります。世界を漫遊する吾々日本人も亦眞劍に日本の世界的風景國たることの確信を得て歸つて居ります。

日本人ほど風景を深く愛する者もありません。私は先年アメリカの富士といはれるシャトル附近のレニア國立公園を訪れました所、そこの公園長は年々數萬の世界各國からの旅行者を送迎してゐますが、つくづく感心したやうに、『日本人は凡て風景詩人だ。レニヤに來て眞に風景を鑑賞して行くのは日本人許りだ』と申しました。かうして日本人が凡て[illegible]ます。

ところが日本は御承知の通り[illegible]當りません。然るにその人口は[illegible]んが、山岳地が大部分を占め[illegible]す。

從つて極めて周到なる農業、[illegible]盡されようとしてゐます。こ[illegible]

然るに此種の產業がどこまで[illegible]廣があります。現にイタリー[illegible]全に國土が產業化せられました。そこで土地に餘裕のある[illegible]た。そこで土地に餘裕のある[illegible]取り殘された自然の大風景地[illegible]には大いに共鳴しながらも、[illegible]

第一卷 國立公園 第一號

表紙……石井柏亭畫伯

□國立公園協會の使命……侯爵 細川護立…（一頁）
□國立公園と時代の要求……内務省衛生局長 潮 惠之輔…（二頁）
□國民保健と國立公園……農林省山林局長 山田準次郎…（四頁）
□國有林の風景施設……理學博士 入江 魁…（五頁）
□歐米の國立公園と天然記念物保存……日本郵船專務 三好 學…（八頁）
□閑却されたる我國の一大資源……醫學博士 大谷 登…（一〇頁）
□國立公園と保健施設……林學博士 氏原佐藏…（一一頁）
■アメリカの新設國立公園……林學博士 遺 石生…（一六頁）
□國立公園の事業と經濟問題……林學博士 田村 剛…（一七頁）
□汎太平洋諸國の國立公園……ツーリスト・ビューロー 上原敬二…（二〇頁）
□外客誘致と國立公園……神奈川縣囑託 高久甚之助…（二三頁）
□大箱根國立公園……内務省衛生局 太田謙吉…（二四頁）
■冬の國立公園……田村 剛…（二六頁）
□國立公園の調査に就て……内務書記官 伊藤武彦…（二七頁）
■本會記事……（三一頁）
■編輯だより……（一頁）
□歐文……

口繪

第一圖 靈峰富岳……（岡田紅陽撮影）
第二圖 飛行機より見たる上高地……（小西白堂撮影）
第三圖 阿蘇大噴火口……（サンタフヘー鐵道會社寄贈）
第四圖 かゥランド・キャニオン……（田村剛博士撮影）
第五圖 バンフ國立公園レーキ・ルイス

推薦します

我が国自然環境政策の原点

越澤　明●北海道大学教授、社会資本整備審議会都市計画・歴史的風土分科会長

今年は明治神宮創建九〇周年を迎える。明治神宮の内苑は、都市における自然環境の創造であり、林学の先達が取り組み、その人脈と学術は、その後、国立公園制度創出の取り組みに発展していく。一方、明治神宮の外苑は、都市における公園の先駆けであり、園芸学の先達が取り組み、その人脈と学術は関東大震災の復興公園の基礎を作り、都市公園制度が確立していく。昭和戦前期に、国立公園協会は『国立公園』誌を刊行し、日本公園緑地協会は『公園緑地』誌を刊行し、前者は自然公園制度、後者は都市公園制度の発展に貢献している。

今日、我が国は大都市に人口が集中する一方、豊かな緑地環境を維持しており、国立公園、県立自然公園など自然公園制度が果たしてきた役割は大きい。今日、低炭素社会の実現、自然環境を活かした観光立国は日本の国家レベルの政策課題となっている中で、我が国の自然環境政策の原点といえる戦前昭和期の『国立公園』誌が復刻発刊されることの意義は大きい。

『國立公園』の復刻を喜び、推薦する

小泉武栄●東京学芸大学教授・自然地理学

雑誌『國立公園』の戦前期の分が創刊号から復刻されることになった。国立公園の歴史や自然保護の歴史に関心をもつ者の一人としてたいへんうれしく思っている。国立公園は年間四億人近くがそこを訪れるなど、国民の間に広く定着しているが、国立公園の成立の過程や歴史についてはほとんど知られていないのが実情である。扱った書物も少なく、発足当時の事情については、田村剛氏や上原敬二氏らの著作があるものの、通史としては村串仁三郎氏の『国立公園成立史の研究』をみる程度にすぎない。その意味で今回の復刻は待ちに待ったものであった。

公園史や造園学、地理学、歴史学、生態学、登山史、観光学などの関連分野はもとより、国立公園や自然に関心のある方々にはおおいに利用していただき、多彩な研究が行われることを期待したい。また国立公園を擁する地元の方々にも基本資料としておおいに活用していただきたいと思う。

不二出版からはやはり戦前期の『史蹟名勝天然紀念物』が、一〇年ほど前に復刻されている。筆者はそれに掲載されている記事をみて、その程度の高さに驚嘆したことがある。今回復刻される『國立公園』も元版はほぼ同時期の刊行であり、質の高い論文や記事がそろっている。読まれた方はそのレベルの高さに驚き、かつ日本の国立公園の素晴らしさを改めて見直すであろう。本書を関係各位に広く推薦したい。

時代を映しだし、国民文化を語る貴重な資料

西田正憲●奈良県立大学教授・造園学

国立公園管理官として現地に駐在していたころ、送られてくる雑誌『國立公園』は全国の自然、景観、観光等に関する貴重な情報源であった。わが国の国立公園は、土地所有に関係なく指定し、自然の保護とともに利用の観点もとりいれ、中央と地方による協働管理を行うという独特の制度をとったので、現在、国立公園を発展させた自然公園体系は国土の七分の一を占めるまでに至っている。国立公園、国定公園等は、狭い国土にあって自然と人間の共生を維持し、持続可能性を追求してきた場所であり、今日では、生物多様性や景観多様性の宝庫となっている。

八〇年以上の歴史をもつ雑誌『國立公園』（『國土と健民』を含む）は、自然保護、自然体験、環境教育、風景文化等を論じるばかりでなく、日本の多様な自然風景地を素材に諸学が多角的な観点から論を展開する場でもあった。今回、その原点の基層をなす戦前・戦中期の全一五三号が復刻されるが、従来これらを閲覧するのは至難であった。これらは、実務者のほか、そうそうたる文化人が執筆しており、とくに文化の香りが高い。雑誌をひもといていると、国立公園はたんなる自然空間ではなく、時代を映しだす表象空間であることがわかる。自然風景地をめぐり複雑な風景の政治学が働いていた。雑誌『國立公園』等は、自然や環境の視点のみならず、歴史や文化の視点をも内包した優れた雑誌である。おそらくわが国の国民文化をあらわす雑誌のひとつと称しても過言ではないだろう。

『國立公園』を通してみる「台湾国立公園」

曽山　毅●九州産業大学准教授・観光学

公園の構想は、「内地」のみならず「外地」である台湾においても同時に進行していた。一九二八年に台湾総督府の依頼を受け、田村剛が阿里山一帯を、本多静六が大屯山一帯を調査している。一九二七年に設立された国立公園協会は一九二九年に雑誌『國立公園』を発刊するが、「内地」の候補地に関する記事の間に台湾国立公園の動向が散見できる。

一九三七年一二月に大屯、次高・タロコ、新高・阿里山の三箇所が台湾国立公園に指定される。選定過程では、台湾国立公園委員の一人である台北帝国大学教授の早坂一郎が、「熱帯景観」を有する地域として恒春半島の採用を強く主張した。しかし、「日本を代表する風景」は山岳景観であるとする内務省、総督府主導の委員会には全く容れられなかったことが今日では知られている。

一九三八年一月発行の『國立公園』一〇巻一号は「台湾国立公園指定記念号」であった。国立公園協会常務理事の田村剛や総督府総務長官をはじめとした総督府幹部たちが文章を寄せ、官製としての台湾国立公園が強調される誌面であった。その片隅で早坂一郎が「国立公園と台湾」と題した文章で、台湾国立公園における官の役得意識の横行を懸念している。

本誌に掲載された台湾関係の記事は記念号を例外として決して多くはない。しかし、本誌は「帝国日本」が台湾に国立公園を構想した意味や目的を、「内地」の国立公園との関係において捉えるための重要な資料なのである。

内容見本

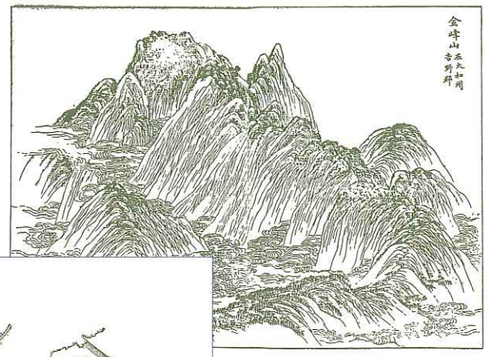
大和アルプス概觀

梅田義彦

一、金峯山・大峯山の歴史的瞥見

往古、神武天皇御東征の砌、熊野を經て大和の吉野に入り給うた遠き事實は姑く措き、欽明天皇の朝佛教我國に渡來以後、その傳播浸潤の結果は推古朝に於ける興隆となり、奈良朝に於ける極盛となつた。此の中間、文武天皇の御宇に當り、大和國葛木郡に生れた役小角は熱信博學、就中佛道に篤依し、葛城山に籠居すること三十餘年に及んだ。彼日本紀には能く鬼神を驅使したことを載せてゐる。

當時は既に修佛の法として山岳に抖擻することが盛行し、佛徒はその道場として大和の葛城・金峯、紀伊の熊野、加賀の白山等を選んだのである。役小角はそれら道者の一代表であり、葛城・金峯、攝津の箕尾山・甲山等の如きは皆その草創に係る所として



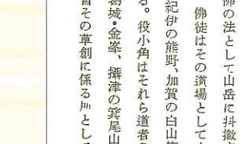
仰へられてゐる。之より修驗道の徒は金峯なほ濃しとして、奥深くその道場を求めた。

（之に就いて、本誌昭和五年十月號「史上の大峯山」で、鷲尾博士は「大峯山は、吉野の奥で、金峯山と呼ばれてゐるもので云々」と言つて居られるが、金峯山即大峯山でないことは地理的にすぐ分る事實である。）

かくて行場に修業する所謂山伏は年と共に多く、峯入りは次第に頻繁となり、金峯山とともに奥大峯山とは大和に於ける最上の道

海上公園の巡遊コース

關倫三郎



（一）大いに海に親しめ

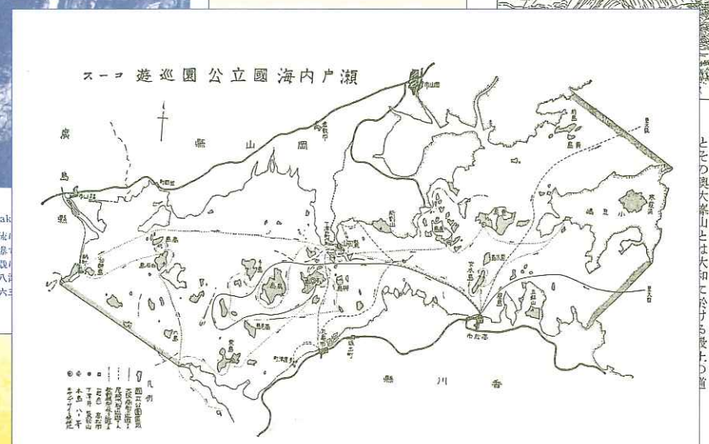
我が國では近代になつてこそ山岳が名勝としての聲價を高め、より多く世に喧傳せられるに至つたが、元來日本人は概して山岳よりも海岸に親しんだものである。其の事實は本邦の名所に須磨だ、明石だ、三保の松原だと云つたやうな海岸風景地の多いことや、更に何時頃何人が定めたか知らないが、彼の日本三景の松島、天の橋立、宮島の何れもが海邊に限り選ばれて居ることに依つても知ることが出來やう。

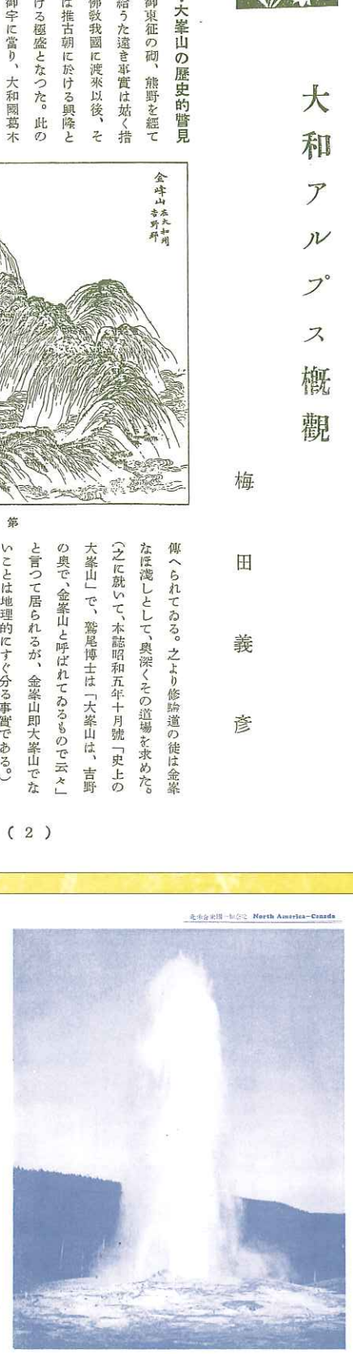
斯様に日本は海國であり、日本人は海國民であるとすれば、國家としても國民としても海を尊び海を愛する心を養はなければならない。世界に誇るべき風光明媚なる瀬戸内海が我が國唯一の海の國立公園に指定されたことは、この意味から云つても誠に同慶の至りであつて、此の上は一日も早く郷土公園に相應しき各種の施設を爲し、國民をして十分に利用せしめ、延ては大いに海を愛し、海に親しむ氣風を涵養せしむる必要があると思ふ。

（二）海上公園巡遊の方法

備讃瀬戸内海國立公園の區域は大部分が海面であつて、陸地と云へば大小百二十の島嶼と沿岸陸地の一部を含んで居るに過ぎないから、之を探勝巡遊するには、どうしても船舶に依らなければならない。廣島縣の鞆、岡山縣の笠岡、下津井、宇野、香川縣の高松、坂出、丸亀、多度津等の諸郷市を中心として一日乃至數日づゝ附近の島嶼を遊覧するならば、夫れは極めて面白いであろう。

例へば島から島へ小舟やボートで漕ぎ廻るとか、和船に帆をかけ風にまか

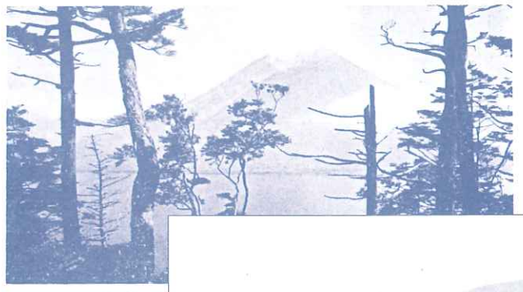




日光 Nikko

日光　中禪寺湖
Lake Chuzenji, Nikko
海拔四、一九三尺周圍六里二丁東西二里南北三十丁の一大明鏡は四隅の翠巒を倒影し日光風景の核心をなして居る

日光　華嚴瀧と中禪寺湖
Kegon Fall and Lake Chuzenji, Nikko
大谷川渓谷南方の山上より見たる大觀で右方の瀧は白雲瀧である



日光　牛
Lake Ch
半月峠は中禪寺湖の南に

金剛山 Kongosan

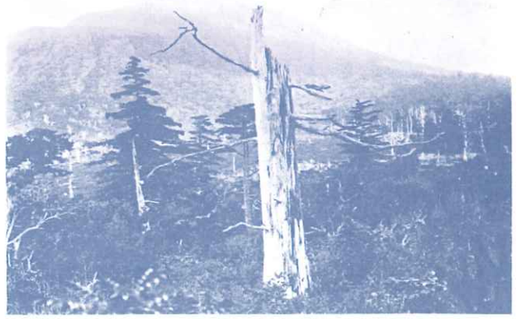
奥萬物相の雄觀（金剛山）　Oku-Bambutsuso or the inner "Aspect of Myriad Things," Kongo-san, Chosen
外金剛の勝は萬物相に於て、そのクライマックスにまするものと言はれてゐる。然るに最近その上流奥萬物相への探勝道路が開かれてより、奥萬物相の趣は漸かに喧傳せらるることゝなり、金剛山の偶語をして益々大ならしめたのである。

・碧波潭（金剛山）
l of Bambakudo, Kongosan
洞に於て極れりといふべく、
森林との僧調は、天工の極致
る普德潭は好點景たるを失は

Kyuryubak
玉流洞の上流
中第一の飛瀑
此沼布の美觀
の上流には八
盧岳で、一六

霧島 Kirishima

大　浪　池　Onami-ike, one of the picturesque lakes on Mt. Kirishima
霧島火山は多數の圓錐火山の集合であつて山麓に比し巨大な火口を頂き多くは湖水を湛えて居る大浪池はその一つで水色樹林共に美はしい背後に聳ゆるは韓國岳である



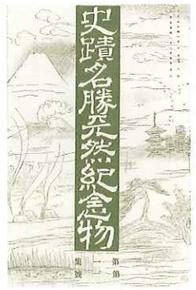
霧島山の森林　Pruneval forest on Mt. Kirishima
暖帶より温帶に亟る帶域の移り行きをもちそれがよく保存されて居る韓國岳から大浪池へかけて最も美はしい景觀を見ることが出來る。寫眞は韓國岳東野方面の樹野である

関連図書のご案内

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編

【復刻版】
史蹟名勝天然紀念物

◉推薦＝荒山正彦・上田正昭・栄原永遠男・羽賀祥二



【大正編】大正三年九月～大正十二年五月
全3巻・附録1・別冊1
●A4判、A5判・上製本・総1、510頁
●別冊＝解説（丸山宏）・総目次・索引
●本体価格＝68、000円＋税
●2003年6月刊行

【昭和編】大正十五年一月～昭和十九年八月
全52巻・別冊1
●A5判・上製・総21、882頁
●別冊＝解説（高木博志）・総目次・索引
●本体揃価格＝880、000円＋税
●2004年10月～2008年11月配本完結

國立公園

復刻版

全12巻＋別冊1

［復刻版概要］

体　裁●B5判・上製・総約5、500ページ

別　冊●解題（白幡洋三郎）・総目次・索引

別冊のみ分売可＝本体価格1、000円＋税

ISBN978-4-8350-6584-7

定　価●本体揃価格＝312、000円＋税

刊行の辞●油井正昭（財団法人国立公園協会理事長）

推　薦●越澤　明（北海道大学教授）

小泉武栄（東京学芸大学教授）

西田正憲（奈良県立大学教授）

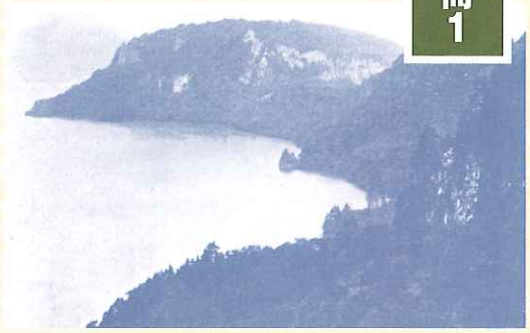
曽山　毅（九州産業大学准教授）

配本概要●

第1回配本	第1巻	昭和4年3月～12月	（第1巻1号～10号）
	第2巻	昭和5年1月～12月	（第2巻1号～11号）
	第3巻	昭和6年1月～12月	（第3巻1号～12号）
		2010年7月刊行 本体78、000円＋税 ISBN978-4-8350-6567-0	
第2回配本	第4巻	昭和7年1月～12月	（第4巻1号～12号）
	第5巻	昭和8年1月～12月	（第5巻1号～12号）
	第6巻	昭和9年1月～12月	（第6巻1号～12号）
		2010年12月刊行 本体78、000円＋税 ISBN978-4-8350-6571-7	
第3回配本	第7巻	昭和10年1月～12月	（第7巻1号～12号）
	第8巻	昭和11年2月～10月	（第8巻1号～10号）
	第9巻	昭和12年1月～昭和13年11月	（第9巻1号～第10巻5号）
		2011年5月刊行 78、000円＋税 ISBN978-4-8350-6575-5	
第4回配本	第10巻	昭和14年1月～11月	（第11巻1号～6号）
	第11巻	昭和15年1月～昭和16年12月	（第12巻1号～第13巻6号）
	第12巻	昭和17年2月～昭和19年6月	（第14巻1号～第16巻3号）
	別冊	解題・総目次・索引	
		2011年12月刊行 78、000円＋税 ISBN978-4-8350-6579-3 ※第15巻1号（原本巻号）より『國土と健民』と改題	

2010年度合計
本体156,000円＋税

2011年度合計
本体156,000円＋税



●表示価格はすべて税別。

不二出版
〒113・0023
東京都文京区向丘1・2・12
電話03・3812・4433
ファクシミリ03・3812・4464
振替00160・2・94084